

パブリックコメント意見のまとめ

【基本計画】

No.	ページ	意見	審議会の考え方
9	15	<p>第3章第2節 計画の実現のために 情報提供・情報共有の推進 下線部を追加 ・広報紙やホームページ、コミュニティ放送(タッキー816)などのメディアを活用した情報発信を充実し、また図書館や公共施設には、市民が必要としている情報が簡単に手に入るようにして、市民とまちづくりの課題を共有します。 ・市民ニーズを的確に把握するため、市民への説明会やパブリックコメント他などで市民の声を聞く機会を増やす…</p>	<p>・左記の1点目の案は下記のとおり修正して追加。 「…メディアを活用した情報発信や、図書館など公共施設における各種印刷物の配置を充実し、市民とまちづくりの課題を共有します。」 ・市民への説明会、パブリックコメントについては、基本計画の分野別計画5-(3)で記述しているため、ここでは不要であると考えます。</p>
10	15	<p>第3章第2節 計画の実現のために 協働(パートナーシップ)によるまちづくりの推進 地縁団体やNPOだけでなく、事業者も共に協働する必要があります。事業者がすべて利益供与団体とは限りません。ゴミの抑制や環境問題では、市内のスーパーや飲食業者、その他の事業者の協力が不可欠です。また、景観面でもなおさら、各事業者の協力、協働が不可欠です。事業者も協働に含めてください。</p>	<p>基本構想第5章第1節の記述に合わせ、1つ目と2つ目の項目の「地縁団体やNPOなど」を「市民活動団体や事業者など」と修正した。</p>
11	21～74	<p>第4章 分野別計画 5.成果指標 基本計画の中で、各課題に対する基本方針に基づく取組結果の成果を定量的に評価することはわかりやすいので、是非成果指標の目標を明示していただきたいが、個々の取組結果を最も適切に評価できる指標になっているのか疑問に感じる部分が随所にみられる。例えば船場の地価の上昇率向上がこのまちの魅力アップの指標になるのか(原案61ページ)。地価とまちの魅力との相関性はあるとしても、市街地全体の地価上昇を指標とすべきではないか。 主役度についても市民、事業者、行政のそれぞれの役割の軽重によって 色を分けているのであろうが、例えば子育て支援センターの設置数を増やすのは市民のニーズがあり、市民が利用するから増やすのであって市民の役割は大きいと言えるのではないか(原案31ページ)。水道事業の経常収支についても市民や事業者が適切な水利用をすることが前提になるのではないか(原案43ページ)。職員定数の削減にも市民の協力と理解が必要(原案70ページ)。また、3者すべてが 一つの場合と 3つの場合があるがどう違うのか。一つの成果は重要性に乏しく、3つの成果は重要性が大きいということを示しているのか(原案16、25、55ページなど)。主役度は省略して、各主体の主な役割を一層明確にすることも考えられるのではないか。 各指標の目標値も成り行きで達成できると思われる甘い目標値が散見されるが、努力すれば実現可能な範囲で一層シビアな目標値を設定すべきであろう。</p>	<p>成果指標については、適切な指標になっているか、目標値の設定は妥当かについて全面的に見直しをした。 主役度は、成果指標に対応する取組を進めるために、各主体がどれだけその役割を果たさなければならないかを表している。各指標で最も主役度が高いものは全て星3つとし、残りの主体が相対的に星いくつかを検討するよう、設定の考え方を統一した。 各主体の役割を明確にするとしても、そのために文章が長くなるとかえって読みづらくなるので、見ただけで分かりやすい主役度はそのまま残すことが妥当であると考えます。</p>

No.	ページ	意見	審議会の考え方
12	21～74	第4章 分野別計画 5.成果指標 成果指標について疑問に感じるところが多くあります。たとえば、P. 22に自主防災組織の結成率が挙げられていますが、形ばかりの実質の伴わない組織も多く、結成率を上げることが適当とは思えません。P. 25のシルバー人材センターの会員数も地域の雇用機会のアップの指標にはなりえないと考えます。成果指標についての考え方が従来の行政評価指標の域をでていないのが気になります。もっと市民の実感に根ざした指標を考える必要があります。審議会で十分議論していただきたいところです。	成果指標については、適切な指標になっているか、目標値の設定は妥当かについて全面的に見直しをした。 ご指摘の指標について、自主防災組織は結成数に変更し、シルバー人材センターは就業率に変更した。
13	44	第4章 分野別計画 3-(1)環境にやさしい生活を進めます 取組の体系に「市民に対する啓発、また小中学校での環境教育を更に推進します」を追加して下さい。	環境学習等の啓発については、「省資源、省エネルギー、自然エネルギー化を進めます」の内容として記述している。取組の1つとして別立てする必要はない。
14	44	第4章 分野別計画 3-(1)環境にやさしい生活を進めます 取組の体系の「ごみの3Rを進めます」は、最近のごみの4R(最近はrefuse, reduce, reuse, recycle)といわれています。	「refuse」には廃棄物という意味もあり、また「refuse」以外の言葉で4Rとしている所もあるなど、統一された考え方がないため、3Rとするほうが分かりやすいと考える。
15	49	第4章 分野別計画 3-(3)人と環境にやさしい交通体系を整えます 鉄道運営は運賃収入だけでは、経営が困難であり、延伸計画の初動期より市民参画の「協議会」を設立し、公共交通の役割を十分に検討するとともに、延伸による開発利益を受ける関係者に財政負担を求めるための制度をつくること、必要であると思います。	市は運行主体ではないが、事業化にあたっては、市民の盛り上がりが必要と考えるので、市民参画は必要と考える。開発利益を受ける関係者に負担を求める取組については検討中であり、積極的に進めていくことを確認している。
16	52	第4章 分野別計画 4-(1)豊かな自然環境を守ります 取組の体系の「山間・山麓のみどりを箕面のブランドとして誇れるものにします」を「山間・山麓のみどり、及び里山や市街地に残る田園風景も箕面のブランドとして、いつまでも大事に継続し、残していきます」(元の文章では、緑が残ってさえいれば、一部開発されてしまうかもしれませんが、また里山や田園風景など具体的に書いておきたいです)	ここでは山間・山麓部の自然環境について記述している。市街地に残る田園風景については、3-(2)、4-(2)、4-(4)などで記述している。

No.	ページ	意見	審議会の考え方
17	64～65	<p>第4章 分野別計画 4-(5)都市の魅力高め、誰もが住んでみたいと思うまちをつくります</p> <p>「誇れるまち」と「羨ましがられるまち」のちがいについて</p> <p>「箕面市のブランド力を高める」「住んでみたいまちのランキングを上げる」ことが目標になるのはおかしいと思います。市民会議でも策定委員会でもそのような「ブランド力を高める」「ランキングを上げる」議論はなかったように思います。市民自らが力を出し合って、まちを元気にしていくことをめざしていけば、結果として外からみれば高い評価をうけることはあっても、それを目標とするのは本末転倒です。むしろ、「自分のまちの誇れるところを3つ以上言える市民の数」というようなことを成果指標にあげるほうが、新聞の掲載記事の数を競うことより意味があるのではないのでしょうか。</p>	<p>まちを元気にしていくことをめざした結果が外に向かって発信されなければ、評価されることもない。外から評価されることによって、市民の箕面に対する愛着、関心がさらに増し、まちづくりへの原動力となることも期待できると考える。また、「住んでみたい街ランキング」は目標ではなく、都市の魅力高める取組の結果を図るものさしである。</p> <p>成果指標としては、市民満足度アンケートの「これからも箕面市に住みたいと思っている市民の割合」を追加した。</p>
18	64～65	<p>第4章 分野別計画 4-(5)都市の魅力高め、誰もが住んでみたいと思うまちをつくります</p> <p>地方分権が進む中で、市民が主体的に地域社会の課題解決に取り組むため、公共的な参画制度を用意し、市民が集結しその専門性を発揮することにより、市民生活の向上を実現していくための仕組みづくりが必要であると思います。</p>	<p>分野別計画5-(1)において、小学校区程度の地域を単位として、地域課題を集約して解決していく仕組みを市民とともに構築すると記述した。</p>
19	82	<p>第5章第4節 西部地域 (3)施策の展開</p> <p>西部の箕面駅周辺の商業施設整備には、「滝」を往復する人々の動線を本通り商店街につないで、日常生活の今日的課題(健康・医療・福祉)に関連する、安全・安心に応えることに特化した商店街作りを、と思います。生鮮食品、関連グッズ、飲食店などは口コミで拡がります。出荷する近郊農家も有機農産物への意欲は高くなるのではないのでしょうか。地域の活性化は、新たに人の流入促進となるのではないのでしょうか。</p>	<p>滝への観光客を、地域資源の活用によって市内各地へ回遊させ、賑わいを創出する取組は、観光と商業の両面から検討していくことが重要であると考え、分野別計画4-(4)及び第5章第4節の西部地域に記述した。</p>